

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区指定事業

第二・三期指定 最終報告書

令和３年３月

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区会議

目 次

I	千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」実施要領	
1	事業の目的	P 1
2	事業の内容	P 1
3	事業の実施体制	P 5
4	取組の具体	P 6
II	千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」の取組の経過	
1	調査研究実践モデル校区会議	P 10
2	教職員を対象とした研修	P 10
3	「調査研究実践モデル校区事業」に係る視察研修	P 12
4	「調査研究実践モデル校区指定事業」の成果	P 14
III	第二期指定 向陽台中学校区の最終報告	P 19
	(向陽台中学校・向陽台小学校・泉沢小学校)	
IV	第二期指定 勇舞中学校区の最終報告	P 25
	(勇舞中学校・北陽小学校)	
V	第三期指定 富丘中学校区の最終報告	P 30
	(富丘中学校・末広小学校・千歳第二小学校・高台小学校)	
VI	第三期指定 北斗中学校区の最終報告	P 36
	(北斗中学校・信濃小学校・桜木小学校)	

I 千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」実施要領

1 事業の目的

本市各中学校区においては、これまでも地域の実態を踏まえ、その必要性からそれぞれに工夫をしながら小中連携教育を推進してきた。また、教育委員会ではその取組の具体についての調査と分析、各校長との意見交流、先進地の視察等を実施している。

本事業は、本市におけるこれまでの取組の成果と課題、子どもたちを取り巻く生活の現状、先進事例などを踏まえ、小中連携・一貫教育が、本市において、子どもたちの健やかな成長にどのようにつながるのかを改めて検証するために行うものとする。

千歳市小中連携・一貫教育検討会議では、本事業における報告書、実践モデル地区以外の中学校区における現状の正確な把握、先進事例、法令の要請などを総合的に分析の上、「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」を策定し、小中連携・一貫教育がより組織的、系統的に行われるように条件整備を進める。

本事業を通して、千歳市小中連携・一貫教育基本方針に示す以下の（１）から（５）はもとより、学校・教育委員会・家庭・地域がそれぞれの役割を明確に意識し、「子どもの健やかな成長」という共通の願いを紡ぐことを目的とする。

- （１）小・中学校共通の目標としての義務教育の目標の実現
- （２）教育内容や学習活動の量的・質的充実への対応
- （３）発達の早期化への対応
- （４）いわゆる「中１ギャップ」への対応
- （５）学校における社会性育成機能の強化

2 事業の内容

（１）調査研究中学校区の指定

教育委員会は、本事業を実施する中学校区（以下「調査研究実践モデル校区」という）を指定する。指定にあたっては、「千歳市小中連携・一貫教育推進の基本方針」に示したように、本市各中学校区の特徴や小中連携の現状を総合的に判断し、１期２中学校区で３期、合わせて６中学校区を指定するものとする。

（２）調査研究実践モデル校区の取組

調査研究実践モデル校区は、次に掲げる取組について、道内外の先進事例から積極的に学びながら、地域や児童生徒の課題を踏まえ、包括的な調査研究を行うこととする。また、調査研究にあたっては、実態を踏まえ、取組の重点化を図ることとする。

- ①教育目標を共有する取組に関する内容
- ②教員同士の交流に関する内容
- ③小中合同の研修に関する内容
- ④教育課程に関する内容
- ⑤その他

※千歳市小中連携・一貫教育推進の基本方針に示す「小中連携・一貫教育の段階的な取組の具体」を参照

(3) 中学校区内の連携組織の立ち上げと運営

調査研究実践モデル校区においては各小・中学校が連携を図るための組織を立ち上げることとする。既存の組織がある場合にはその組織の見直しを図りながら、より実効性の高い組織への改善を図ることとする。

(4) 「調査研究実践モデル校区会議」における情報交流

本事業の実施上の課題や取組状況、成果などの情報を共有し、事業を効果的に実施するため、調査研究指定中学校区の小・中学校の校長及び実務担当者と教育委員会職員で構成する「小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区会議」を設置する。

①構成

- ア 実践モデル校区の小・中学校の校長、実務担当者
- イ 教育委員会企画総務課、学校教育課、学校指導課の課長
- ウ 教育委員会学校指導室長、学校教育主事

②協議内容（推進協議会においては、次に掲げる事項を協議する。）

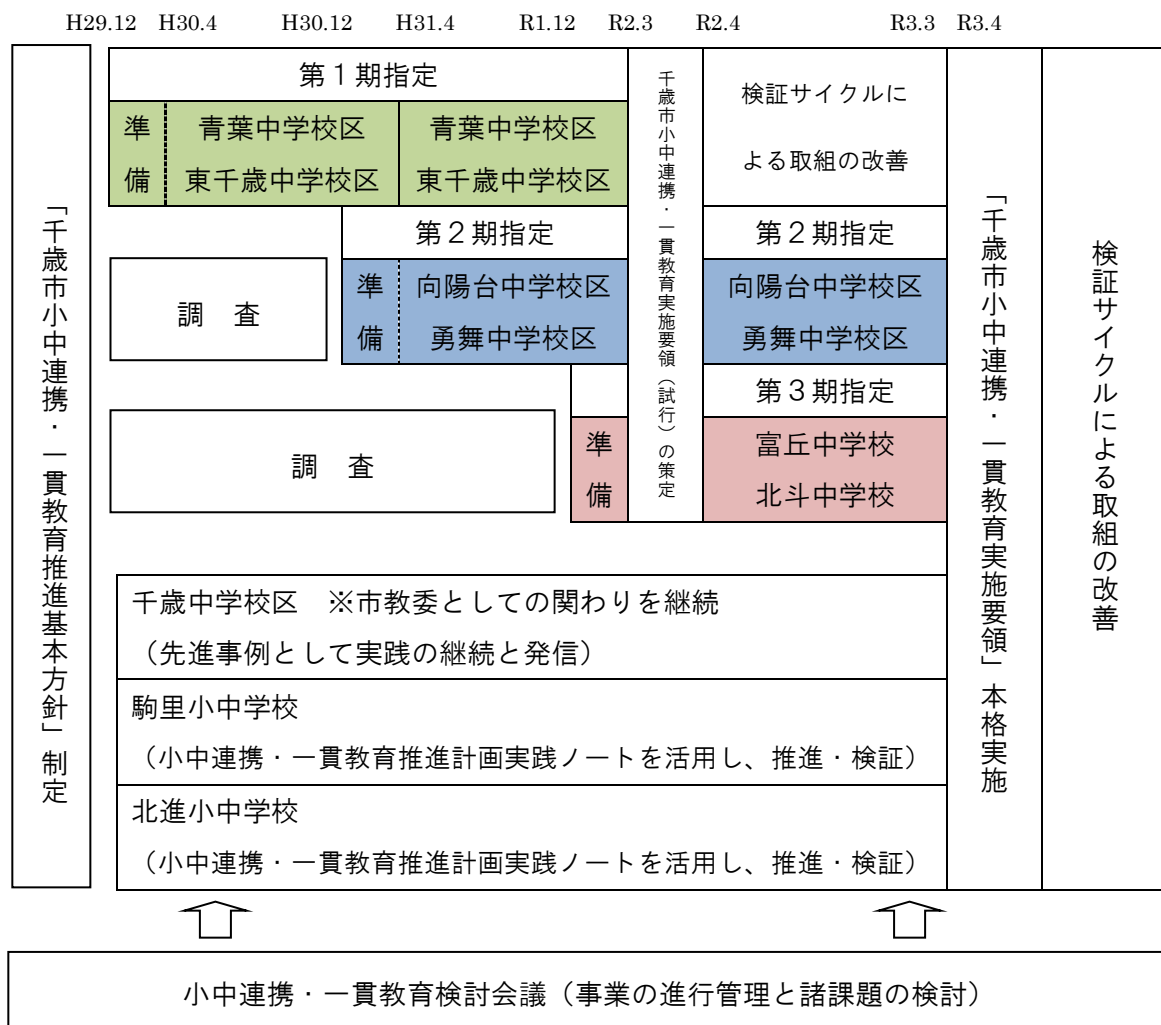
- ア 事業推進上の課題や取組状況、成果などの情報共有
- イ 関係各課からの情報提供及び指導助言
- ウ 「小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区事業」に係る意見交換
- エ その他

(5) 調査研究実践モデルの指定期間

実践モデル校区の指定は、第1期を平成30年4月から令和2年3月まで2年間、第2期を平成31年4月から令和3年3月までの2年間、第3期を令和2年4月から令和3年3月までの1年間とし、第1期事業開始から第3期事業終了までは3年間とする。

以下、調査研究実践モデル校区事業のスケジュール等について、図を示す。

【調査研究実践モデル校区事業のスケジュール等】



(6) 計画書及び報告書の作成と提出

調査研究実践モデル校区においては、実践モデル校区として計画書及び報告書を作成する。作成にあたっては、中学校区内の連携組織にて協議を行うものとし、必要に応じて、教育委員会学校指導室職員が協議に参加することとする。

また、報告書に関しては、調査研究開始後1年を目処に中間報告書を作成し、小中連携・一貫教育検討会議及び調査研究実践モデル校区会議に提出することとする。

小中連携・一貫教育検討会議は、調査研究実践モデル校区から提出された報告書を取りまとめ、小・中学校に情報提供するとともに、「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」の策定など、小中連携・一貫教育がより組織的、系統的に行われるように条件整備を進める。

計画書及び報告書については「千歳市小中連携・一貫教育推進の基本方針」に示す「小中連携・一貫推進計画実践ノート」を活用し、学校における事務負担の軽減を図る。また、その手順については、「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」によるものとする。

(7) その他

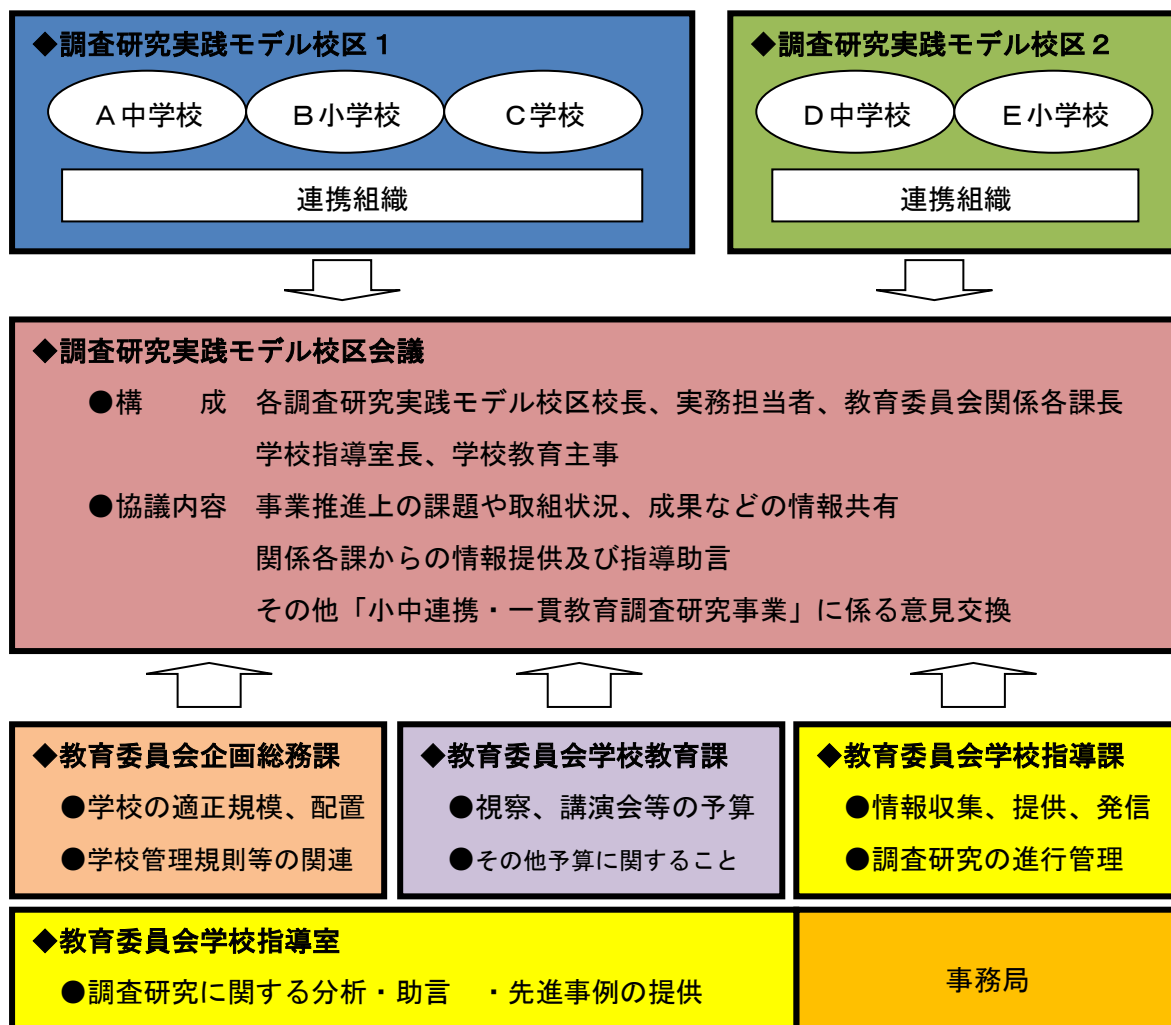
- ・ 調査研究実践モデル校区各校1名、先進事例の視察研修を位置付ける。視察研修の成果については、日常における調査研究実践モデル校区の取組の成果と併せて、翌年度に市内教員対象研修等で発信することとする。
- ・ 第3期の調査研究実践モデル校区については、視察研修は位置付けず、第1期、第2期の調査研究実践モデル校区の報告書等を参考として、取組を推進するものとする。

3 事業の実施体制

本事業は、当該中学校区における教育効果の向上とともに、本市における小中連携・一貫教育をより組織的、系統的に行うための「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」策定に資するものである。

以下、本事業の組織体制について、図を示す。

【実施体制のイメージ図】



4 取組の具体

以下に示す小中連携・一貫教育計画実践ノートを用いてP D C Aサイクルによる取組を行う。

小中連携・一貫教育推進計画実践ノート

1 中学校区の状況

中学校区名				施設形態		通学区域	
中学校区							
学校名							
学校規模							
通常の学級数							

2 計画（P）

（1）学校教育目標

（2）小中連携・一貫教育推進組織

組織名					代表校			
学校名	構成員（教職員）				構成員（P T A等）			人数
	校長	教頭						

(3) 中学校区の課題と重点目標

中学校区の課題	中学校区の重点目標

(4) 地域の情報

実態	地域人材等	行事
		(月)
		(月)
		(月)

(5) 具体的な取組と計画

月	学習指導	生徒指導	その他
4 月			
5 月			
6 月			
7 月			
8 月			
9 月			
10 月			
11 月			
12 月			
1 月			
2 月			
3 月			

3 実施（D） 以降年度末に記入

月	学習指導	生徒指導	その他
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

4 成果検証（C）

視点	学習指導	生徒指導	その他
学校の取組			
子どもの育ち			

5 中長期的な計画（P）

年度	学習指導	生徒指導	その他
平成31年度 ・中 道徳科実施 ・小 外国語移行			
平成32年度 ・小 指導要領実施 ・市 基本計画策定			

6 小・中連携・一貫教育の段階的な取組の具体のチェック

※計画・実施項目をチェックする

取組		段階	H30. 4	H31. 3	H31. 4	H32. 3		
1 教育目標を共有する取組	☆中学校区における教育目標の相互理解	連携 交流 段階						
	☆家庭、PTAとの連携							
	☆学習指導・生徒指導の実態交流							
	☆学校便り・学級通信による情報交流							
	☆相互授業参観							
	☆中学校区の組織（協議会）の設置	連携 共有 段階						
	☆授業研究・校内研修							
			☆校外研修の成果の交流					
			☆学力調査等の活用					
	☆学習規律							
			☆家庭学習の習慣化・手引きの作成					
			☆生活習慣のきまり					
			学 習 指 導	☆乗り入れ授業				
				各種検定（漢字・英語等）の実施				
				☆体力向上の取組				
				☆特別支援教育に関する交流				
				小学校での定期試験の実施				
	通知表・学習評価の共有							
	補充学習の交流							
	生 徒 指 導		☆交流・合同行事					
			☆児童会・生徒会の交流					
			☆小中交流会の企画・運営の改善					
			☆家庭生活宣言・アウトメディアの啓発					
			☆いじめや不登校の未然防止の取組					
	☆9年間で育てたい子ども像の設定		小 中 一 貫 教 育 お					
	9年間の教育目標の設定							
	研究主題等・テーマの統一							
	校務分掌の整理・統合							
	合同の学校評価							
	教 育 課 程 に 関 する 接 続 の 目 標 設 定			☆国語				
☆社会								
☆算数、数学								
☆理科								
音楽								
図画工作・美術								
体育、保健体育								
家庭、技術・家庭								
☆外国語活動、外国語								
道徳								
総合的な学習の時間								
特別活動								
キャリア教育、情報教育、食育など								
連 地 携 域	中学校区による学校運営協議会の運営							
	学校評議員・学校関係者評価委員の整理							
	地域人材活用状況の共有							

※ ☆印は調査研究実践指定校区における共通の取組

Ⅱ 千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」の取組の経過

1 調査研究実践モデル校区会議

(1) 目的

小中連携・一貫教育推進の中核的取組である本事業の開始に当たって、調査研究実践モデル校区（以下モデル校区）の各学校の管理職、実務担当者及び市教育委員会関係各課が情報を交換することで、本事業の目的を再確認するとともに、モデル校区の取組の促進及び発信に資することとする。

(2) 千歳市小中連携・一貫教育にかかわる経過

平成30年 5月29日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議①（1期指定）
7月24日（火）千歳市小中一貫教育研修会
7月26日（木）～27日（金）千歳市小中連携・一貫教育視察研修
8月17日（金）千歳市小中一貫教育講演会
10月 9日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議②
平成31年 1月24日（木）千歳市調査研究実践モデル校区会議③
2月 6日（水）総務文教常任委員会に報告
2月15日（金）校長会議にて中間報告の提示
2月27日（水）教育委員会会議に報告
令和元年 6月 4日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議①（1・2期指定）
10月 8日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議②
11月 7日（木）～8日（金）小中一貫教育全国サミット in 堺 視察
令和2年 2月10日（月）千歳市調査研究実践モデル校区会議③
3月16日（月）校長会議にて第1期最終報告書
第2期中間報告中間報告書の提示
3月24日（火）教育委員会会議に第1期最終報告書
第2期中間報告中間書の報告
4月24日（金）教育委員会会議で千歳市小中連携・一貫教育実施要領（試行）の審議
6月 5日（金）校長会議にて千歳市小中連携・一貫教育実施要領（試行）の提示
令和3年 3月 8日（月）校長会議にて第2・3期最終報告書（案）の提示
3月22日（月）教育委員会会議に第2・3期最終報告書の報告
千歳市小中連携・一貫教育実施要領の審議

2 教職員を対象とした研修

(1) 平成30年度千歳市小中連携・一貫教育研修会

①目的

「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」(平成29年11月制定)に基づく「千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区指定事業」の開始年度に当たり、市内全教職員が「生きる力」をはぐくむ小中連携・一貫教育について学ぶ機会を設定することで、教職員の小中連携・一貫教育に対する理解を深め、市内小中学校における教育活動の充実に資することを目的とする。

②日時

平成30年 7月24日(火)

③場所

千歳市立北陽小学校 体育館

④参加対象者

千歳市小中学校教職員(525名)

※校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、事務職員、栄養教諭

⑤講演

演題 「小中連携・一貫教育の方向性と英語教育について」

講師 北海道教育大学札幌校教授

北海道小中一貫教育推進事業運営会議委員 萬谷 隆一 氏

演題 「『自分を育てる』小中一貫教育」

講師 広島県呉市立呉中央小学校長 神笠 雅司 氏

(2) 平成30年度千歳市小中連携・一貫教育講演会

①目的

「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」(平成29年11月制定)に基づき、令和3年4月から全市で一斉実施する小中連携・一貫教育について、市民の理解を深め、学校、家庭、地域と教育行政が協働して、義務教育9年間の子どもたちの連続した学びと確かな成長を支える教育環境づくりに資することを目的とする。

②日時

平成30年 8月17日(金)

③場所

北ガス文化ホール(千歳市民文化センター) 4階大会議室

④参加対象者

市民 学校関係者(教職員、PTA、学校評議員、学校関係者評価委員、学校運営協議会委員、教育委員会職員等) 石狩管内学校関係者

⑤講演

演題 「小中連携・一貫教育の魅力ここにあり！」

講師 岐阜聖徳学園大学教授 玉 置 崇 氏

3 「調査研究実践モデル校区事業」に係る視察研修

(1) 平成30年度 視察研修（第1期指定）

①目的

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区事業の推進に当たり、先進地の視察を行い、義務教育9年間で目指す子ども像の設定、教育課程の編成と実施の具体、小中一貫教育による子ども及び教員の変容、コミュニティ・スクールとの関連等について、当該学校長との協議を行い、本事業の一層の推進に資することを目的とする。

②視察日程

平成30年 7月26日（木）にしみたか学園三鷹市立井口小学校

7月27日（金）品川区立品川学園

③視察地

項 目	視察先1	視察先2
(1)学校名	にしみたか学園三鷹市立井口小学校	品川区立品川学園
(2)所在地	東京都三鷹市	東京都品川区
(3)小中一貫教育の型	施設分離型小中一貫校	義務教育学校
(4)沿革抄	・H18.4「にしみたか学園」開園 （井口小、第二小、第二中） ・三鷹市で最初の小中一貫校	・M7.3品川小 ・S2.4城南中 ・H23.4施設一体型小中一貫校として開校
(5)児童数	667名	1,120名
(6)学級数	20学級	38学級（特別支援学級3）
(7)学校教育目標	輝く笑顔 やりぬく強さ 進んで学ぶ 井口の子	学ぶ力 豊かな心 健やかな体

④内容

- 義務教育9年間で目指す子ども像の設定について
- 教育課程の編成と実施の具体について
- 小中一貫教育による子ども及び教員の変容について
- コミュニティ・スクールとの関連について
- 小・小連携について
- 義務教育学校の教育について 等

⑤訪問者

- 青葉中学校区

小笠原 輝幸（青葉中学校長）

月居 忠文（日の出小学校教頭）

佐藤 香代子（祝梅小学校教諭）

○東千歳中学校区

中村 伸次 （東千歳中学校長）

高橋 基 （東小学校教頭）

○事務局

佐藤 貢 （学校指導課長）

（２）令和元年度 視察研修（第２期指定）

①目的

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区事業に当たり、小中一貫教育全国サミットに参加して、授業視察及び、義務教育９年間で目指す子ども像の設定、教育課程の編成と実施の具体、小中一貫教育による子ども及び教員の変容、コミュニティ・スクールとの関連等について先進事例を学び、本事業の一層の推進に資することを目的とする。

②視察日程

令和元年１１月 ７日（木）～８日（金）

③視察内容

○授業視察（１１月 ７日）

堺市立市小学校（会場）

【分離型６－３制】

※授業公開：月州中学校・三宝小学校・錦西小学校・市小学校の１２学級を公開

・住所：堺市市之町西３丁目１番１４号

・研究テーマ：「つなぐ・つながる・ひびきあう」

小中連携による道德教育の充実をめざして

○全体会・分科会（１１月 ８日）

全体会 堺市の小中一貫教育の取組紹介・基調講演

分科会 学力向上分科会

④参加者

○向陽台中学校区

林 稔晃（向陽台中学校教頭）

森國 聡（泉沢小学校教頭）

○勇舞中学校区

野上 秀樹（勇舞中学校主幹教諭）

桑田 信之（北陽小学校教諭）

○事務局

大西 智彦（学校指導課長）

4 「調査研究実践モデル校区指定事業」の成果

(1) 教育目標を共有する取組

① 目指す子ども像の設定・共有

○中学校区の実態把握と目指す子ども像の設定

○小中連携・一貫教育全体計画・グランドデザインの作成と共有

子どもたちは小学校1年生から中学校3年生までの義務教育9年間の中で、日々の学習を積み上げ成長する。「小学校の教員が、中学校での学習や子ども達が中学校を卒業するときの姿をイメージしながら日々の教育活動を行っているのか」、「中学校の教員は、小学校のどの学年で何を学び、何につまずいているのかを知った上で指導にあたっているのか」など、課題に応じた対応を模索することが重要である。

モデル校区の小中学校では、小学校と中学校が6・3制の枠組みの中で、学習指導や生徒指導において互いに協力し、義務教育9年間の目指す子ども像を共有し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組むことができた。

② P T A の連携・接続

○P T A 合同行事の設定

○千歳市家庭生活宣言の普及促進

学校とP T A が共通の課題意識をもち、小中学校のP T A が研修や行事を合同で実施し、小中学校9年間を通して子ども達を育む環境づくりに取り組むことができた。

また、千歳市P T A 連合会による「千歳市家庭生活宣言」について、中学校区P T A が連携して研修会を実施するなど、子どもたちの望ましい生活習慣・学習習慣の構築に努めている。



(2) 教員同士の交流に関する内容

① 学習規律の接続

○学習規律（スタンダード）の共有・共通化

○ハイパーQ U 検査の活用

子どもたちの学力向上の基盤は望ましい学習集団の形成にあり、学習規律の徹底に向けた取組は小学校1年生から見通しを持って進めることが必要である。

ハイパーQ U 検査では、義務教育9年間の中で、小学校1年生、4年生、中学校1年生で学習意欲が向上しているとの結果が出ており、中学校区内の交流会等で共通理解を図るとともに、チャンス逃さない丁寧かつ徹底した取組を進めてきた。

② 家庭学習の習慣化の取組

○学習の手引きの共通化

千歳市家庭生活宣言では、家庭での学習時間の目標として「学年×10分＋10分以上」を掲げており、小学校6年生では1時間10分以上の家庭学習時間が求めている。令和2年度全国学力・学習状況調査の質問紙検査結果では、「普段、1時間以上勉強している」児童の割合が58.4％（前年度：62.8％）、中学3年生に期待される学習時間は1時間40分以上となるが、「普段、2時間以上勉強している」生徒は40.5％（前年度：27.4％）であり、「1時間以上2時間未満学習している」生徒も34.4％（前年度：38.4％）と家庭生活宣言の取組が少しずつ浸透してきている。各中学校区では、家庭学習の手引きを共通化するなど、一貫した家庭学習指導や家庭への啓発を行い、主体的に学ぶ子ども達の育成に努めている。

（３）小中合同の研修に関する内容

①学力向上の取組

○学力調査結果等、諸検査の分析・共有・課題の明確化

小中合同教科部会により「標準学力検査」や「全国学力・学習状況調査」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、「ハイパーＱＵ検査」などの調査結果の分析結果を共有し、中学校区としての課題を明確にして、授業改善に対する意識が高まり、具体の取組につなげることができた。

②相互授業参観・授業研究・校内研修

○指導の連続性・専門性の向上

小中学校教員が相互に学びあうことでそれぞれの力量を高める観点から、小中学校教員合同研修の実施や、小中学校教員が互いに授業を見合う授業交流を積極的に実施することができた。互いの校内研究の状況を把握することで、指導の連続性につながる取組として期待できる。



（４）教育課程に関する内容

①教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定

○9年間を見通した教科系統図の作成

全国学力・学習状況調査や標準学力検査等のエビデンスに基づき、中学校区として教科に関する共通の目標設定をしたり、各学年における重点領域・内容を明らかにした「教科の系統図」を作成して、9年間を通じた指導の一貫性を確保するとともに、教職員の授業力の向上や体制整備に努めることができた。

教科に関する共通の目標設定		
【国語】		
	小学校の実態	中学校入学までに付けてほしい力
強み	●音読は低学年から時間をかけて取組んでいるので、スムーズに読める児童が多い。 ●意欲的に取り組み、授業でじっくりと読み取った内容は定着している。	◆板書を素早くノートに書けるようになる。 ◆学年相応の語彙力を身につける。 ◆文章を読むときに、要旨をとらえると同時に、自分の意見も持つようにする。 ◆想像力、感じる力を高める。
課題	●自分の考えや気持ちを表現できないことがある。 ●グラフや資料と関連付けながら、関係性を考える力	
【算数・数学】		
	小学校の実態	中学校入学までに付けてほしい力
強み	●整数の四則演算ができる ●図形の公式や基本計算ができる ●指示されたことができる ●その場で身に付ける力はある	●九九を完璧に ●コンパスや定規、分度器の使い方を完璧に ●小数・分数の四則演算 ●計算過程をしっかりとかけるように（定期的を書くようにして忘れないように）
課題	●小数や分数の四則計算 ●活用する力（つなげる力、応用力 ●読解力（聞かれていることと答えるべきことがずれている） ●単位の換算・変換	
【社会】		
	小学校の実態	中学校入学までに付けてほしい力
強み	●身近な社会事象についての関心が高く、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られる。 ●各単元のキーワードをしっかりと押さえることができています。	◆基礎的な知識（都道府県、国、大陸などの名称とその位置関係など） ◆知識を結び付けて理解する力。（歴史上の人物名とその業績、時代や歴史の流れなど） ◆複数の資料を活用して、考察する力。 ◆調べたことや考えたことを自分の言葉で、わかりやすく表現する力。
課題	●つながりを持ちながら、基礎的な用語や知識を理解していく力。 ●複数の資料を比較しながら活用する力。 ●学んだことを生かして、自分の考えを表現する力。	
【理科】		
	小学校の実態	中学校入学までに付けてほしい力
強み	●実験や理科的知識に関心が高く、学習に意欲的である。	◆計算力（少数・分数のかけ算・割り算） ◆実験・観察を通して正しい実験道具の使用方法を身に付けてほしい。
課題	●実験の結果から考察し、表現する力が弱い。 ●生活経験が乏しく、根拠をもって実験の予想をすることが苦手である。	
【外国語】		
	小学校の実態	中学校入学までに付けてほしい力
強み	●意欲的にコミュニケーションをはかり、前向きに取り組んでいる。 ●話形に合わせて楽しみながら表現している。	◆アルファベット（大文字・小文字）を書けるようにする。 ◆ローマ字（ヘボン式）に慣れ、自分の名前や地名を書けるようにする。 ◆文章表記の際、英語のルールに慣れさせる。（語間のスペース、文末のピリオドなど）
課題	●アルファベットを書く活動に慣れていない。 ●英文を視写する際、単語の間を意識した書き方が難しい。 ●発音がカタカナ英語になってしまう。	

項 目	高学年（小56）	中学1年	中学2年	中学3年
計 算	小5 小数の乗除を行う。 分数（異分母）の加減を行う。（通分と約分を行う。） 小6 小数と分数の計算を早く確実に進行。 通分と約分を早く確実に進行。	- 正負の数の四則計算を行う。 - 文字を用い乗除を表す。 - 一次式の加減を行う。 - 方程式を解く。	- 文字式の加減を行う。 - 文字を用い単項式の乗除を行う。 - 連立方程式を解く。	- 式の展開や因数分解を行う。 - 平方根の計算を行う。 - 二次方程式を解く。
課題・弱点	奇数・偶数、約数・倍数 小数の乗除、分数の計算 単位量	1次方程式 比例と反比例 関数・図形	文字式の計算と利用 連立方程式 一次関数	関数 $y=ax^2$
これだけは！ 【計算力】	分数のかけ算・わり算を途中式まで書いて確実に計算できる。 立体の面積を求めることができる。 図形の面積の公式	分配法則 比例・反比例	連立方程式を解ける。 （※等式の変形等式を整理して）	二乗を 15^2 まで覚える 乗法・因数分解の公式を覚える。 解の公式
数直線 線分図				

時	目 標	学 習 内 容 ・ 活 動	おもな評価の観点	小中連携の視点
1 ・ 2	○小数は整数と同じ十進位取り記数法によって表されていることを理解する。 ○10倍、100倍や、1/10、1/100などの大きさの数をつくり、それらの関係を小数点の位置の移動に着目して理解する。	・42.195のしくみを調べることとおして、どんな整数や小数も、0から9までの10個の数字と小数点を使って表せることを知る。 ・1.95を10倍、100倍にした数を調べることとおして、小数を10倍するなどの小数点の移り方をまとめる。 ・88.7を1/10、1/100にした数を調べることとおして、小数を1/10にす	関 小数も、整数と同じように十進位取り記数法によって表されているよさに気づき、整数や小数のしくみを考えようとしている。 関 整数、小数の十進数としてのしくみを理解している。 関 整数や小数の10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさの数について、十進位取り記数法をもとに考えている。 技 10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさの数を小数点の位置を移動して作ることがで	中1 式の活用 中2 式の活用 ・数の位取りをもとにした式の表し方は、中学校で2ケタの自然数を、文字を使って表す $(10x+y)$ とときに必要になる。 中3 近似値と有効数字 ・中3では有効数字をはっきりとさせるために、整数部分が1桁の数 a と10の累乗を用いて近似値を $a \times 10^n$ または $a \times \frac{1}{10^n}$ で表すことを学ぶ。ナノメートルなどの小

②乗り入れ授業の実施

○指導の在り方の共有・指導の連続性

小学校から中学校に進学した際、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制への学習環境の変化があるが、モデル校では、小中学校教職員が指導のあり方について共



通認識をもって乗り入れ指導を行い、小学校高学年段階等からの教科担任制の一部導入や、小学校から進学した生徒を見守りながら指導する取組を創意工夫しながら実施することができた。

③合同行事の実施

○自己有用感の高まり・先輩へのあこがれ

モデル校では、「新体力テストの合同実施」や「地域清掃」、「部活動体験」、「挨拶運動」など、各中学校区で創意ある取組が実践され、小中学生が相互に影響し合い、中学生の小学生を指導することによる自己有用感の高まりについても報告されている。また、地域と学校が一体となる取組に発展した事例も見られ、地域とともにある学校づくりの方策としても期待できる。

(5) その他

①学校運営協議会・地域人材の活用などの連携

千歳市は、平成29年度からコミュニティ・スクール調査研究事業により、市内3校をモデル校として調査研究に取り組み、平成30年には千歳市学校運営協議会規則を制定し、令和2年度よりすべての小中学校に学校運営協議会を設置した。小中連携・一貫教育を縦のつながり、コミュニティ・スクール事業を横のつながりとして、地域とともにある学校づくりを進め、学校・保護者・地域が一体となり、目指す子ども像の実現に努める必要がある。学校支援地域本部事業（令和3年度より地域学校協働活動に移行）も活用して裁縫学習ボランティアやプール・スキー学習ボランティア、放課後学習ボランティアなど地域人材の活用が進んでおり、今後も社会に開かれた教育課程の創造に努める必要がある。

モデル指定中学校区においても、小中合同の清掃活動を地域と連携して実施する取組が見られ、今後も縦と横の連携の実践を期待したい。

②いじめや不登校の未然防止

各学校においては、学校いじめ防止基本方針に基づき、「いじめは決して許されない」という共通認識のもと、教職員全員がいじめ問題に対し共通認識と危機感を共有し、いじめ事案が発生した場合には、速やかに方針に沿った具体的な対応を講じている。

また、中学校入学後、新しい環境での学習や生活に不適應を起こす「中1ギャップ」につながらないよう、「1日登校体験」や「部活動体験」、「乗り入れ授業」など、中学校区内で創意工夫した取組を推進している。

③特別支援教育に関する連携

各校においては、コーディネーターを中心に困り感のある児童生徒の実態把握や教育相談を計画的に進めているが、モデル校においては、小中学校間・コーディネーター間、担任間などで、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」をもとに共通理解を図り、「切れ目のない一貫した指導や支援」に努めた。

Ⅲ 第二期指定 向陽台中学校区の報告

(向陽台中学校・向陽台小学校・泉沢小学校)

千歳市立向陽台中学校区

向陽台中学校長 前 川 茂

向陽台小学校長 木 谷 金 吾

泉 沢小学校長 大 村 正 俊

1 経過報告

年	月	日	曜	内 容
31 (元)	6	24	月	推進委員会①
		26	水	出前授業（向陽台小・保体）
	7	22	月	第1回小中連携会議（全体会・各部会協議） 推進委員会②
		29	月	実務研修〔教育環境部〕
	9	4	水	学習指導・特別支援部会
	10	26	土	三校交流会（ミニバレーボール大会）
	11	7	木	小中一貫教育全国サミット in 堺参加
		19	火	小中交流会（各部会協議・中間実践交流会） 推進委員会③
		21	木	出前授業（泉沢小・理科）
		22	金	出前授業（向陽台小・数学）
	12	18	水	あおぞら学級児童が向中へカレンダー贈呈〔特別支援部〕
		20	金	向小保護者による向中4組の授業参観〔特別支援部〕
2	1	24	金	オープンスクール 泉沢小の要支援児童へ特別支援学級見学のサポート〔特別支援部〕
	2	25	火	特別支援部会
		26	水	各部会協議・実践交流会(反省・計画) 【中止】
	3	27	金	小中学校引継ぎ会議 推進委員会④
	6	24	水	推進委員会⑤
	7	22	水	各部会協議 【中止】
	10	26	土	三校交流会 【中止】
	11	19	木	各部会協議 【中止】
3				児童会・生徒会交流会検討 【中止】
	2			各部会協議
				特別支援部会
				実務研修〔教育環境部〕
				推進委員会

2 取組の成果と課題

(1) 教育目標を共有する取組に関すること

① 取組

- 「9年間で目指す子ども像」策定と確認
- 「グランドデザイン」策定と確認

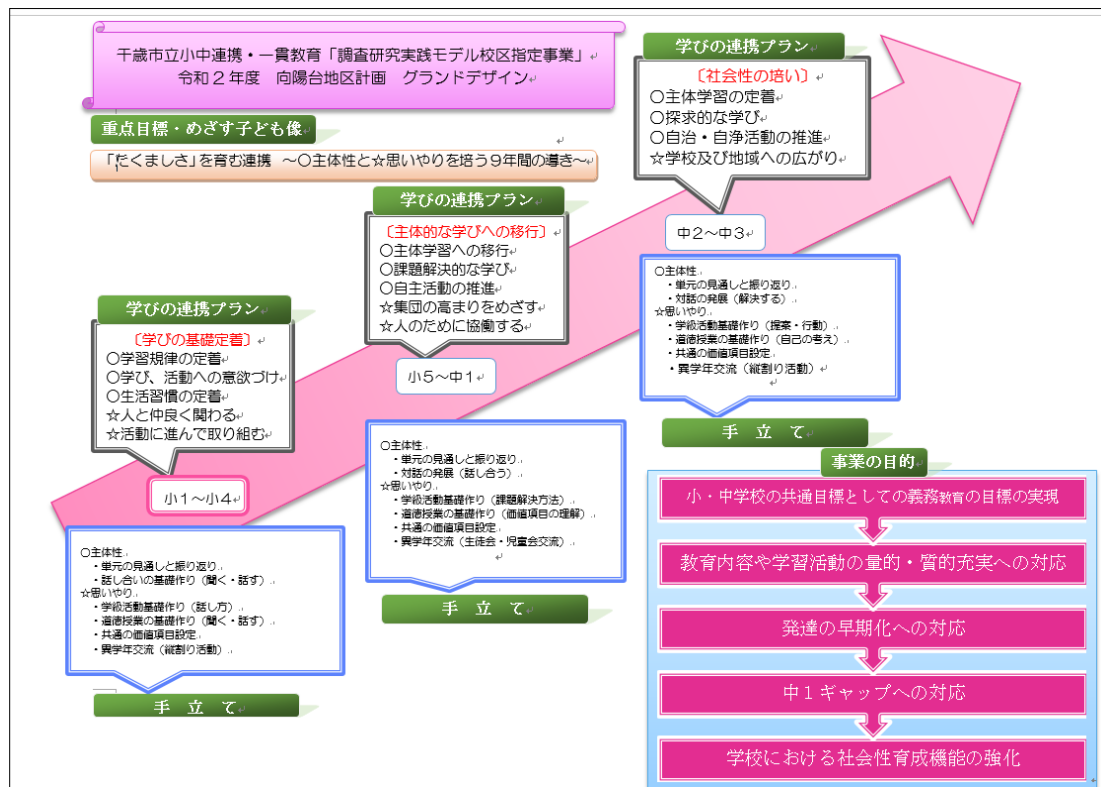
② 成果

- 9年間を通した段階的な目指す子どもの姿を設定することで、向陽台の子どもを育てるという、共通した意識を明確にもつことができた。
- 全体計画や担当等を確認することで共通理解が図られ、無理のない範囲で事業を進めることができた。

③ 課題

- 今後も継続的な取組とするためにも、教育課程へ全体計画等を明記、位置付ける必要がある。

向陽台中学校校区 9年間で目指す子ども像					〇「たくましさ」を育む連携 ～ 主体性と思いやりを培う9年間の導き ～								
千歳市の目指す 教育 基本理念	学年	教育目標		重点目標		研究主題		めざす子ども像		知能 検査	学力 検査	旅行的行事	
		向小	泉小	向小	泉小	向小	泉小	向小	泉小			向小 泉小	向小 泉小
「ふるさと千歳に感謝し ふるさと千歳の発展を祈り ふるさと千歳の未来を託す」	小1	〇〇〇〇	「明るく豊かな心とたくましい体をもち 実践する子どもの育成をめざす」 すすんで考える子（知） すなおで思いやりのある子（情） ねばり強くやりぬく子（意） 明るくたくましい子（体）	「明るい笑顔 響き合う心 躍躍く泉沢」	「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 向小の子」	「笑顔と思いやりを育てるたくましい心」	「自ら学び、心豊かに表現できる子どもの育成」 「伝え合って学ぶ国語科の授業作りを通して」	「心のつながり」を大切に する子の育成 「特別な教科道徳を基盤として」	〇 〇				



(2) 教員同士の交流に関すること

① 取組

- 〇「小中連携プログラム」の策定と確認

② 成果

- 〇話し合いを定例化しPDCAを繰り返すことで、部会の質や交流が深まり、児童・生徒交流へとつながった。

③ 課題

- 〇令和元年度は、全体会・各部会を3回実施し、事業が軌道に乗ったと思われたが、今年度は感染症対策により活動がなかなか実施できなかった。次年度は状況によってはオンライン会議を実施するなど、定期的な交流を進める。

(3) 小中合同の研修に関すること〔学習指導部会〕

① 取組

- 〇教科系統表から具体的改善方法の検討

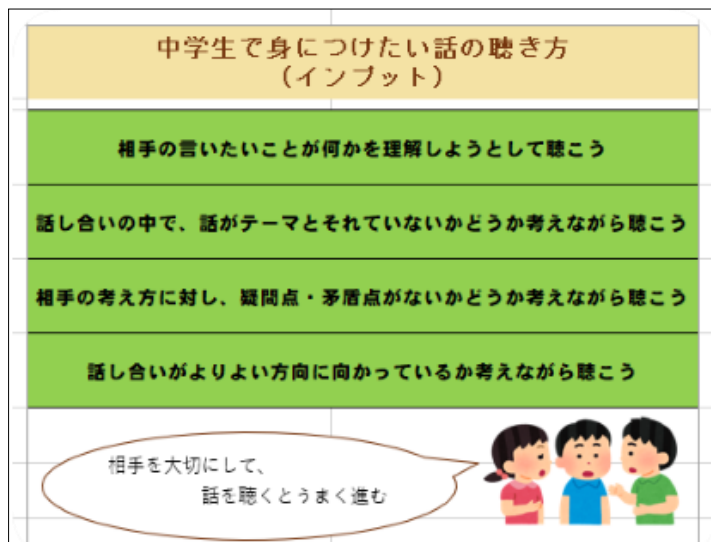
② 成果

- 〇学習指導部会を中心に、教科系統表を作成した。令和元年9月の全体研修では、①育てたい力 ②NRT検査結果からの課題を示した。結果から「言語活動の充実」

を重点に各部会で具体的な改善策を検討した。検討から「言語活動」に関わる掲示物を作成し、共通指導を目指した。令和2年4月の学級開きで各担任から一斉の説明を行い、日常的に活用している。

③ 課題

○向陽台校区全校で「言語能力」が課題となっている。令和元年度の各部会から改善策が出され、教科・学級活動・道徳において実践されている。令和2年度、全体での検証を行う予定であったが、感染症対策により実施できておらず、次年度の課題として引き継ぐ。



(4) 教育課程に関すること〔学習指導部会〕

① 取組

○道徳・総合的な学習の時間の系統表作成

② 成果

○令和元年度「道徳・総合的な学習の時間」における、①道徳重点項目の系統表、②旅行的行事の行き先・ねらい、③探求テーマと学年でつけた力について一覧表を作成した。

道徳重点項目		
	向陽台小	泉沢小
小1	「親切、思いやり」 善悪の判断、自律、自由と責任	親切、思いやり
小2		
小3	「親切、思いやり」 善悪の判断、自律、自由と責任	
小4		
小5	「親切、思いやり」 善悪の判断、自律、自由と責任	
小6		
中1	友情、信頼 生命の尊さ	
中2	友情、信頼 より良い学校生活	
中3	より良い学校生活 真理の追究	

③ 課題

○令和2年度は「9年間で目指す子ども像」を受け、系統性を持たせた具体的な指導計画を策定予定であったが、会議を開催できなかったため、次年度に作成する。

(5) 児童・生徒指導に関すること〔生徒指導部会〕

① 取組

- 「向陽台スタンダード」～よりよい話し合い活動を目指して～
- 児童会・生徒会交流会

② 成果・課題

- 令和元年度に向陽台スタンダードを作成し、各学校に周知し、各学校の実態に合わせて実施している。次年度は各校の実施状況の検証を行う。
- 令和元年度は3校の児童会、生徒会議案書を教員間で確認した。今後は児童生徒同士で議案書の確認をし合う場面を取り入れ、具体的な交流や合同行事の計画・実践に取り組む予定である。

向陽台スタンダード（学級活動）（抜粋）				
	低学年	中学年	高学年	中学校
目指す児童のすがた	仲よく助け合い学級生活を楽しくすることを通して、わがままをなくす。	協力し合って楽しい学級生活をつくることを通して、集団意識を高め、自治的能力を育む。	信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることを通して、自己のよさを認め合い、自己有用感を高める。	望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする態度を育てる。
指導のめやす	・教師が進行役を受け持つところから始める。 ・友だちの意見をよく聞く。 ・約束に従って自分の意見を言う。 ・学級生活を楽しくするために集団決定する。	・教師の適切な指導の下に児童が活動計画を作成する。 ・輪番制でどの児童も司会を経験する。 ・理由を明確にして意見を言う。 ・異なる考えをしっかりと聞いて公平に判断する。 ・楽しい学級生活をつくるために集団決定する。	・教師の助言を受けながら、児童自身が話し合いの方法などを工夫して効率的、計画的に運営する。 ・学校生活にまで目を向け建設的な意見を述べ合う。 ・多様な意見のよさを生かして、楽しい学級や学校の生活をつくるために集団決定する。	・議題に対して見通しを持って主体的に運営をする。 ・異なる考えをきいて公正に判断し、自分の考えを伝える。 ・望ましい学級集団や学校をつくるために集団決定する。

(6) 特別支援に関すること〔特別支援部会〕

① 取組

- 支援児童・生徒の共有

- 支援方法の共有・提案
- 学校体制の整備・共有
- 特別支援学級児童・生徒・保護者交流

② 成果

- 個別の指導計画等、各校での資料を持ち寄ることで、実態把握をより深めることができた。
- 支援員の活用方法や支援の具体策、担任との連携の進め方等を交流した。
 - ・ R 1 /12/18 あおぞら学級児童が中学校へカレンダー贈呈
 - ・ R 1 /12/20 小学校保護者による中学校特別支援学級の授業参観
 - ・ R 2/ 1/24 オープンスクールにて要支援児童へ特別支援学級見学のサポート

③ 課題

- 令和元年度は、教員間での情報共有・交流を中心に進めた。次年度は交流した内容をもとに具体的な取組方法等を検討し、児童生徒へ実際に働きかけ、その成果と課題を明らかにしていく。児童生徒に還元できるよう取組を進めていく。

(7) 教育環境（事務）に関すること〔教育環境部会〕

① 取組

- 学校環境の改善
- 学校予算の効果的執行
- 事務職員の研修及びO J T
- 徴収金業務の改善

② 成果

- 学校環境改善に関する情報交流はできなかった。業務員と連携した環境整備の方策を来年度は検討していきたい。
- 備品共有を視野に入れた交流ができなかった。ただ、印刷機器については情報交流を行い予算の有効活用につながっている。

③ 課題

- 日常的に実務の研修を行うことができた。特に繁忙期に相互支援できるような関係作りをしていきたい。
- 徴収金徴収時期・回数を2校で統一することができた。次年度にむけて、保護者が理解しやすい文書作成に取り組んでいきたい。また、諸経費徴収金額を交流し、保護者負担軽減につなげたい。

Ⅳ 第二期指定 勇舞中学校区の報告（勇舞中学校・北陽小学校）

千歳市立勇舞中学校区

勇舞中学校長 多 田 貴 典

北陽小学校長 野 尻 一 裕

1 経過報告

年	月	日	曜	内 容
31 (元)	5	16	木	勇舞中学校区小中一貫連携協議会 第1回推進協議会
	6	21	木	勇舞中学校区小中一貫連携協議会 第1回実務者協議会
	7	26	金	勇舞中学校部活体験
	8	21	水	勇舞中学校1日体験入学（北陽小6年生）
		23	金	小中合同あいさつ運動（第1期） ～29日（木）
	11	6	水	勇舞中学校研究授業に北陽小学校教職員参観
		8	金	千歳市小中連携・一貫教育視察研修
		20	水	小中交流会（北陽小学校）
		29	金	北陽小学校学校公開日に勇舞中学校教職員参観
	12	27	金	勇舞中学校部活体験
2	1	17	金	小中合同あいさつ運動（第2期） ～23日（木）
		28	火	勇舞中学校区小中一貫連携協議会 第2回実務者協議会
	2	26	水	勇舞中学校区小中一貫連携協議会 第2回推進協議会
	6	2	火	勇舞中学校区小中一貫連携協議会 第1回推進協議会兼第1回実務者協議会
	7	27	月	勇舞中学校部活動体験 【中止】
	8	19	水	勇舞中学校体験入学（北陽小6年生）
		24	月	小中合同あいさつ運動 ～28日（金）
	11	24	火	小中交流会（勇舞中学校） 【中止】
3	1	29	金	新入生入学説明会

2 取組の成果と課題

（1）教育目標を共有する取組に関すること

① 取組

○勇舞中学校区における教育目標と9年間で育てたい子ども像の設定

② 成果

○勇舞中学校・北陽小学校の教育目標、目指す子ども像・生徒像を生かして設定できた。

③ 課題

○教職員や保護者、地域として共有する方法や場面を増やしていく必要がある。

北陽小学校 教育目標

自分や友だちのよさを生かし、心をより豊かにしよう
とする子どもの育成

〔情〕 思いやりをもち、助け合う子(やさしい子)

〔意〕 目標に向かって、努力する子(がんばる子)

〔知〕 自ら学び、深く考える子(考える子)

〔体〕 進んで体をきたえる子(元気な子)

重点教育目標

『進んで学び 行動する子ども』の育成

～ 自己有用感の向上 ～

目指す子ども像

意欲的に学習に取り組み、お互いのよさ・考えを認め、
高め合い、友達となかよく交流・活動できる児童

勇舞中学校 教育目標

瞳をきらめかせ 希望に満ちた未来を拓く

重点目標

豊かな心に根ざした確かな学力

目指す生徒像

- ・ 規律があり、さわやかな挨拶をする生徒
- ・ 思いやりの心をもち、協力して活動する生徒
- ・ 意欲的に学習に取り組む生徒

9年間で育てたい子ども像

- ・ 志をもち、学び続ける児童生徒
- ・ 心豊かにたくましく生きる児童生徒

(2) 教員同士の交流に関すること

① 取組

○小中交流会での授業参観、学習指導・生徒指導の実態交流、教科別のグループ交流

○勇舞中学校1日体験入学（北陽小6年生）の実施、乗り入れ授業、相互授業参観

○勇舞中学校区小中一貫連携協議会の設置

○学校だよりによる情報交流

○中学校研究授業、小学校学校公開日での教員同士の交流



② 成果

- 大規模校でなかなか交流の場をもつことが難しい現状の中、小中交流会、小中一貫連携協議会、1日体験入学、研究授業・学校公開日を活用した教員同士の交流の場等、多くの取組を設定できた。
- 実務者協議会で、各分掌チーフ同士の参加だけでなく、小6担当を実務者に加えることでより連携をはかることができた。



③ 課題

- 各取組をさらに有効なものにし、継続できるような内容の検討が必要である。

(3) 小中合同の研修に関すること

① 取組

- 勇舞中学校研究授業に北陽小学校教職員が参観
- 北陽小学校学校公開日に勇舞中学校教職員が参観
- 校外研修の成果の交流
- 小中交流会において、標準学力調査（NRT）、全国学力・学習状況調査、新体力テスト等の結果を交流



② 成果

- 研究授業参観を通して、互いの授業を研究的に見ることができるようになった。
- 小中交流会では、各調査の結果から、取組の成果と課題を確認することができた。

③ 課題

- 校外研修の成果の交流については、学校種の違いから情報ニーズも違うことから実施の必要性は薄いと考えられる。

(4) 教育課程に関すること

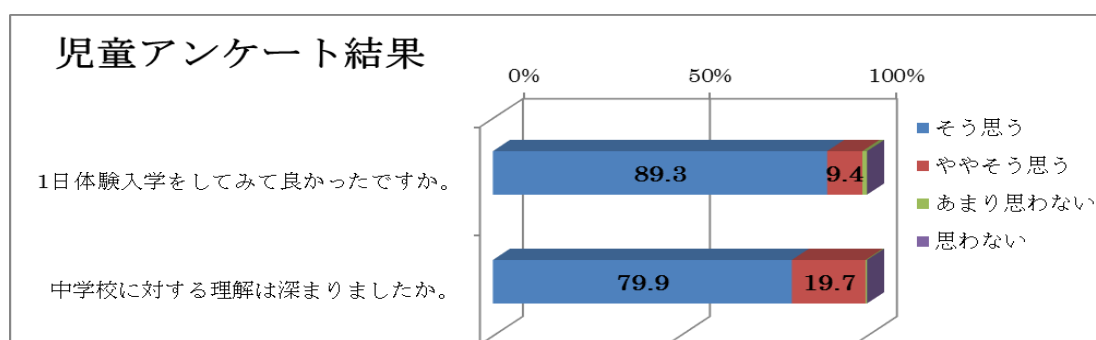
① 取組

- 学習や生活のきまり、家庭学習の手引きの作成
- 特別の教科「道徳」の各学年の重点目標・重点指導項目・年間指導計画の交流・連携
- 勇舞中学校 1 日体験入学（北陽小 6 年生）の実施
- いじめ・不登校の未然防止の取組
- 体力向上の取組
- 全国学力学習状況調査や標準学力調査（N R T）等の各調査の分析結果からの授業改善の工夫
- 教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定（5 教科）

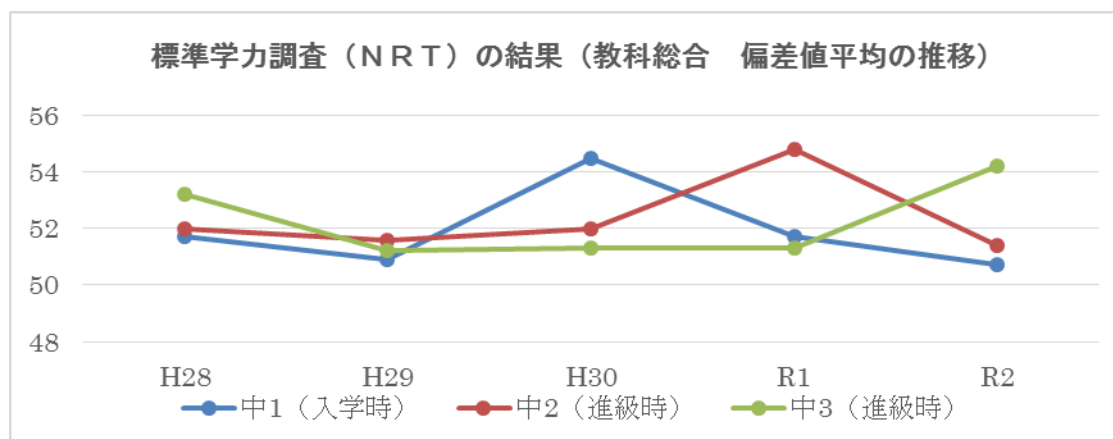


② 成果

- 学習のきまり、家庭学習の手引き、生活のきまりについて、9年間を見通したものを作成することができた。
- 道徳科の学年の重点目標・重点指導項目・年間指導計画の交流を行うことで9年間の道徳の流れを相互に確認することができた。
- 1 日体験入学の取組は6 年生にとって大変満足度の高いものとなった。



- いじめ・不登校の未然防止の取組として、3月の6年担任と中学1年担任が入念に引継を行うことができた。
- 体力向上の取組として、1 日体験入学の際に中学校体育教師による6 年生への乗り入れ授業を実施することができた。
- 全国学力学習状況調査については、概ね全国平均前後の結果である。また標準学力調査においては教科総合で偏差値平均が51～52程度である。



③ 課題

- 9年間を見通した教育課程の接続の系統表ができたので、今後はその活用方法を考えていく必要がある。

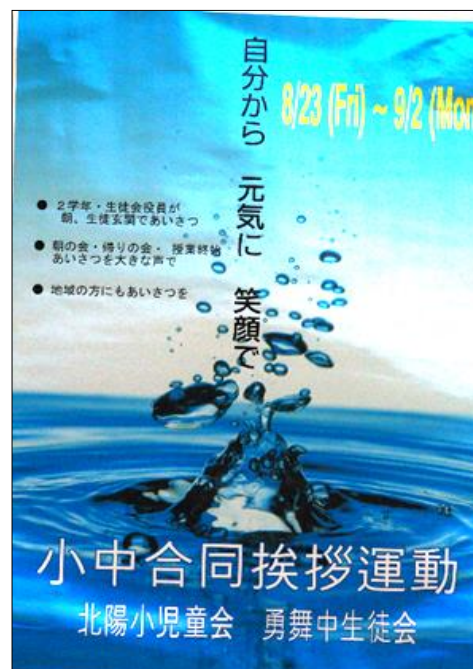
（5）その他

① 取組

- 部活動体験
- 小中合同あいさつ運動（夏・冬）の実施
- P T A 合同研修会の実施

② 成果

- 部活動体験にも6年担任以外の小学校教員も中学校に出向くことで、交流を図るとともに中学校の活動内容について理解を深めることができた。
- 勇舞中校区として、あいさつ運動を同時期に同テーマをもって開催することで共通意識を高めることができた。
- 小中のP T Aが合同で実施する研修会（ヨガ教室等）の実施方法を確立し、継続しやすい仕組みを構築できた。



③ 課題

- 実施時期や内容も含めた検証・改善を行い、活動の充実を図る必要がある。
- 児童生徒が互いに発案し、連携できるような能力の育成を図りたい。
- P T A 合同研修会について、より持続可能な仕組みづくりを図る必要がある。

V 第三期指定 富丘中学校区の報告

(富丘中学校・末広小学校・千歳第二小学校・高台小学校)

千歳市立富丘中学校区

富丘中学校長 古 川 広 光

末広小学校長 北 野 敬 和

千歳第二小学校長 山 田 聡

高台小学校長 安 榮 智 裕

1 経過報告

年	月	日	曜	内 容
31 (元)	5	6	土	小中連携推進委員会発足
		16	木	第1回小中連携会議
		24	金	中学校体育祭
	6	31	金	中学校区PTA交流会 第1回中学校区 英語検定
				小学校運動会
	7	28	金	小中学校参観日の(教員)への案内、授業参観交流
		22	月	中学校区「9年間で育てたい子ども像」についての職員アンケート実施
	8	26	金	中学校部活動体験会(107名参加)
	9			小中連携計画についての検討
		26	木	中学校区PTA交流会(富丘中学校担当)
	10	26	木	小中学校参観日の(教員)への案内、授業参観交流(合唱)
		5	土	中学校文化祭
				全国学力学習状況調査結果の情報提供
	11	24	木	富丘中校区PTA教育交流会
				小学校学芸会
		21	木	第二回小中交流会・小中連携推進委員会 小中交流会での部会交流(課題の把握、目標の共有)
		25	月	末広小学校 乗り入れ授業【道徳】
	12	26	火	高台小学校 乗り入れ授業【道徳】
	12	3	火	吹奏楽部ミニコンサート(小学生 550名参加)
				学校評価に小中連携についての評価項目を設定 学習規律・家庭学習の指導項目共通化の検討(小学校の指導内容の統一化、小学校の指導項目を踏まえた中学校の指導内容の検討)
	1	6	金	第二小学校 乗り入れ授業【道徳】

2	2	24	金	中学校新入生説明会 ・学習指導についての説明及び体験授業の実施 ・生活指導についての説明 第二回小中合同英語検定試験
	3	17	月	第3回小中連携会議 (次年度連携計画)
	4	26	木	中学校新入生に関する引き継ぎ
	6	6		小中連携推進委員会発足
	7	25	木	第1回小中連携会議 ・今年度の取り組みの確認 ・教育課程に関する共通な取組の流れ確認
	8	15	水	中学校区「育てたい子ども像」教職員アンケート配布
		7	金	中学校区「育てたい子ども像」教職員アンケート集約
	10	17	金	第二回 英語検定合同実施
		24	土	サッカー部小学生対象体験入部
	11	29	木	第二回小中交流会・小中連携推進委員会 小中交流会での資料交流について(課題の把握、目標の共有) 中学校区PTA教育講演会 → 中止
		10	火	小中学校参観日の(教員)への案内、授業参観交流(学芸発表)第二小
		25	水	小中学校参観日の(教員)への案内、授業参観交流(よさこい発表)末広小
		26	木	富丘中校区小中連携交流(資料交流→各校回覧)
	12	中		各校 教科に関する共通目標設定会議開催
3	1	22	金	中学校新入生説明会 ・学習指導についての説明及び体験授業の実施 ・生活指導についての説明 第4回小中合同英語検定試験
		25	月	第二小学校 乗り入れ授業【入学説明】
		26	火	末広小学校 乗り入れ授業【入学説明】
		28	木	高台小学校 乗り入れ授業【入学説明】
	2	1	月	小中連携教科代表者会議
	3			第3回小中連携会議(次年度連携計画)

2 取組の成果と課題

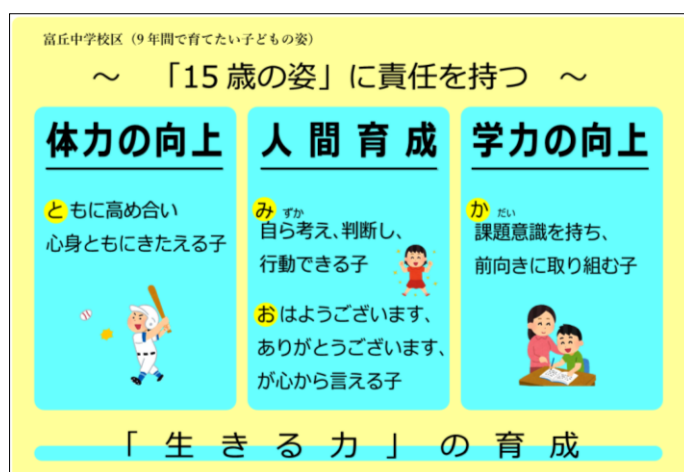
(1) 教育目標を共有する取組に関すること

① 取組

- 中学校区内教職員による児童生徒の課題把握アンケート実施・分析・全体での確認
- 小中連携プロジェクトの意義・目的・目標の設定
- 『9年間で育てたい子ども像』の作成

② 成果

- 中学校区内に在籍する児童生徒の状況を小中で確認することで、子どもの長所・短所を知ることができ、全教職員が児童生徒に対して共通した接し方（指導）を行うことができた。
- 年度始めに小中連携の意義や目的を共有することで、義務教育を卒業するまでのゴールを明確に持ち、全教職員が指導に当たることができた。



③ 課題

- 学校運営委員会と連携を取り、地域・保護者とも情報を共有していけるように発信力を向上させる必要がある。令和2年度はコロナ禍の関係ですべてが事後報告や紙面交流に止まってしまった。
- 各校の代表者による会議で「組織」「活動内容」を確認したことが、各校によって同様に全職員に伝わりにくさが感じられる。

「富丘中学校区・小中連携プロジェクト」の意義と目的、目標

1) 意義

- ①小学生：中学校進学への不安感を軽減し、スムーズな接続を図ることができる。
- ②中学生：小学生との交流を通じて、自尊感情を育てることができる。
- ③教職員：目標や指導法を共有することで、指導効果を上げることができる。

2) 目的

9年間育った児童の目標（ゴール）に向けた課題を設定し、「15歳の姿に責任を持つ」といふ、学力向上・人間育成・体力向上に向けたサポートを行う。

3) 目標

子どもたちの「15歳の姿に責任を持つ」ため、教育課程の工夫・改善などにより、富丘中学校区を形成する各学校の教育活動の円滑な接続を図り、共通理解のもと支援や指導を行う事業を積極的推進します。

【留意事項】

- ・本プロジェクト推進にあたっては、各校の「主体性」「独自性」を十分に尊重する。
- ・各校は、目的や目標等をしっかり共有しながら、各校の目指す子ども像の策定に向け、実践を積み重ねていく。
- ・3校の連携先である富丘中学校では、最終教育終了時まで身に付けさせたい力や目標値等を積極的に示すことで、各校が円滑な連携に向けて取り組みやすい環境づくりにリーダーシップを発揮する。

4) 「富丘中学校区・小中連携プロジェクト」の特色

富丘中学校区

富丘中学校 東広小学校 第二小学校 高倉小学校

千歳高等学校 北陽高等学校 千歳特別支援高等学校

千歳科学技術大学

富丘中学校は、市内3校の小学校（東広小・第二小・高倉小）から児童を正統に受け、これらの各小学校との緊密な連携を構築して進めていくことが大切である。また、高倉小は「千歳中」へ児童を進学させている。そのため、千歳中学校との連携・連携を必要に応じて行うことも大切である。

本年度、本プロジェクトを進めていく上で、以上のような特色を十分に踏まえ、取組を進める。

(2) 教員同士の交流に関すること

① 取組

- 乗り入れ授業の実施
- 児童生徒の実態把握と情報共有、引継ぎ

② 成果

- 中学校進学に当たり不安を解消させるため、中学校からの体験授業と小学校での中学校生活におけるアンケート集約で中一ギャップの解消に努めることができた。
- 全教職員による児童生徒の実態に関するアンケートを実施し、中学校区に在籍する子供たちの強みと課題を共有し、身につけさせたい力の方向性を確認し、同一步調で指導に当たれる基盤づくりができた。

「6年間で育てたい子ども像」の設定 「18歳の夢に責任をもつ」	
千歳市では、平成の年度より「千歳市小・中学校・高等学校調査研究実施モデル校地区協議会」が行われております。また、市内中学校区は、今年度、調査年度を行う中です。 小学3年生を境としていくにあたって、8年間育てていきたい子ども像を軸で、教育するためにアンケートを実施しています。	
大まかに分けて3つに分けてありますが、アンケートの結果にご協力願います。	
学校名	
お名前	
なぜ、今「小学生観」が必要なのか、みなさんのお考えをお書きください。	
いとお敬であふれにこころに育ちたい。小学校で学ぶ楽しさを体験し、学びたいという気持ちを育てたい。小学校で学ぶ楽しさを体験し、学びたいという気持ちを育てたい。	教科担任制 学習内容 テスト 学級活動、生徒会、児童会、運動部活動 友だち関係 毎日の日課 制服・ジャージ 不登校対策 その他
富田中学校区でめざすべき子ども像（具体的な行動目標） （中学校卒業時に身につけてほしい姿）	
母校授業の実施を受け、課題を解決する力に付加したい力という認識。	
可能であれば、「『こういう〜』習慣があるのさ！」「この力を伸ばしていきたい。」というような前進をお願いしたい。	

③ 課題

- 今後、今回情報共有できた児童生徒の「強み」を活かす・「課題」を克服する教師の働きかけを、相互の乗り入れ授業で確認できるような体制作りを行うことが求められる。
- 統一した学習規律を小中で共通し掲示物として可視化したものとするこゝで、意識づけ継続した指導となるようにしたい。

(3) 小中合同の研修に関する事

① 取組

- 小中交流での授業参観・相互紙面交流
○教科代表者会議（今後開催）

② 成果

- 学校重点目標や学習規律等の交流を行い、指導の統一性を持たせることで、児童生徒に一貫性を持った指導に当たることができた。

③ 課題

- コロナ禍により一堂に会しての研修機会を設けることができなかったため、紙面交

流となった。そのため、特に生徒指導面において細部に関する交流ができなかった。

(4) 教育課程に関すること

① 取組

- 新入生説明会における児童に対する乗り入れ学習の開催
- 5教科による小中共通到達目標の設定

② 成果

- 新入生保護者説明会と並行して例年は、児童の体験授業を行っている。
しかし、今年度はコロナ禍により体験授業が行えなかったため、小学校へ乗り入れ授業を行い、中学校生活についての説明(授業)を行った。
6年生の生の声を聴くことで、中一ギャップ解消につながったものと考ええる。
- 小中で校区に在籍している児童生徒の「強み」「弱み」を共有することで、一貫した指導を行い、スムーズな接続を促すことができる。



③ 課題

- 乗り入れ授業については、時間割の調整が必要であり、特に小学校からの乗り入れについては困難を感じる。児童生徒の実態を共有し指導の方向性は共有できたが、相互の乗り入れ授業により、お互いの授業を体験することで、より生きたものとなるように感じる。

(5) その他

① 取組

- 部活動体験会
- 交流・合同行事の開催
- 児童会・生徒会の交流

② 成果

- 児童生徒の交流による行事の開催により、生徒の責任感とリーダーシップの向上、

児童の中学校生活への順応や向上心を高める取組となっている。

③ 課題

- お互いが対面しての取組であり、今年度はコロナ禍のためすべてが中止となった。
体験や活動状況を直接見学することが成果へとつながるが、今後はオンラインでの
企画変更も視野にいれなければいけない。

Ⅵ 第三期指定 北斗中学校区の報告
(北斗中学校・信濃小学校・桜木小学校)

千歳市立北斗中学校区

北斗中学校長 小 川 満

信濃小学校長 高 橋 真

桜木小学校長 近 藤 弘 隆

1 経過報告

年	月	日	曜	内 容
2	4			家庭学習の手引き配布
	7	27	月	北斗中学校区 小中連携・一貫教育代表者会議
	8	5	水	デジタルコンテンツ研修会
				小学校へ「北斗体操(動画DVD)」を研修資料として提供
				部活動見学会 ※コロナ感染拡大のため中止
				乗り入れ授業(中止)
	11	6	金	生活リズムチェックシートの活用・検証
		10	火	中学校区PTA合同研修会(マインドマップ)
		19	木	生徒指導の実態交流(教護協会と連携して) ※コロナ感染拡大のため中止
		26	木	千教振小中交流会 ※コロナ感染拡大のため中止
	12	5	土	数学検定合同実施
				体力向上の取り組み(北斗体操を活用して)
3	1	29	金	新入生説明会(音楽・理科・数学・英語での授業体験)
		30	土	漢字検定合同実施
	2	17	火	生徒指導の実態交流(教護協会と連携して)
	3	26	金	児童生徒引継ぎ会議

2 取組の成果と課題

(1) 教育目標を共有する取組に関すること

① 取組

- 小中連携・一貫教育の全体計画の策定と確認
- 9年間でめざす子ども像の作成
- 北斗中学校区小中一貫協議会と部会組織の設置

② 成果

- 全体計画や担当者等を確認することで共通理解が図られ、教職員の小中連携・一貫教育に対する雰囲気できた。
- 9年間で目指す子ども像と年度の重点を設定することにより、小学校の教職員が義務教育のゴールを見通せるようになった。

③ 課題

- 「お互いの学校（教育実践）を知る」「できる事から連携する」というキャッチフレーズで事業がスタートしたが、コロナ禍では実践交流の場を設定することができなかった。次年度以降は、各部会（分科会組織）の会議を重ね小中の実践を蓄積し、新たな課題を共有していくことが大切である。
- 保護者、地域への積極的な教育実践の発信と支援要請を通して、「地域とともにある小中学校」の風土を根付かせる必要がある。

（２）教員同士の交流に関すること

① 取組

- 各部会組織の年間活動計画の策定
- 教育課程、学校運営の交流
- 生活リズムチェックシートの活用・検証
- 「北斗体操（動画）」による体力向上の取組
- 入学前児童生徒引継ぎ会議



【北斗体操（動画）】

② 成果

- 各部会組織の代表者会議を開催することにより、小中相互の実践と課題が明確となり、取組の方向性が定まった。

③ 課題

- コロナ禍の収束後に、全体会を開催し、全教職員で取組の方向性を再確認し、今年度実践できなかった活動を実践・検証していく必要がある。

(3) 小中合同の研修に関すること

① 取組

- デジタルコンテンツ研修会
- 北斗中学校区交流会（P T A・教職員合同）の開催
- 校内研修会への視察研修（学校教育指導訪問を含む）



【デジタルコンテンツ研修会】

② 成果

- コロナ禍の状況を逆手に取り、Zoom等の遠隔会議やデジタル教材の研修ができた。今後は、各部会会議や小中交流会などを通して、各校の実践交流を深めていきたい。
- 中学校区交流会では、講師からの子育てアドバイスもあり、参加された保護者にも大変好評でした。



【中学校区交流会】

【中学校区交流会 感想】

- ・前から気になっていたもので、とてもとても楽しみで参加できてよかったです。早速活かしたいと思います。中3の息子も面白かったと言っていました。
- ・研修ありがとうございました。楽しみにして参加させていただき、とてもよい時間でした。自分のことへの振り返り、発見でも使え、子どもの事でも活用していきたいです。「子どもは預かりもの」とてもありがたい気持ちになりました。

③ 課題

- 昨年度から、学校教育指導訪問を含めた校内研修会への視察交流を行っている。今年度は、コロナの影響で北斗中学校では指導主事の訪問が中止となり、視察研修が停滞した。次年度以降、視察研修や校内研修への講師派遣、授業交流など研修の充実を図っていきたい。

(4) 教育課程に関すること

① 取組

- 新入生説明会における中学校での体験授業（異校種授業参観）

	
【英語】自己紹介を中心とした英会話	【音楽】リコーダーの種類や音色について
	
【理科】ガスバーナーの操作体験	【数学】天才「ガウス」に挑戦

② 成果

○事前アンケートを行い音楽・理科・数学・英語の4教科で授業体験を行った。今後
も中学校生活を体験できる内容を模索していきたい。

○体験授業を担当した先生たちは、教科の特性を活かし参加した6年生の興味関心を
高める工夫が見られた。授業を終えて体育館に集合した児童たちの多くは、「楽しか
った」との感想を語っていた。今後も中学校生活を体験できる内容を模索してい
きたい。

③ 課題

○毎年、小学校から英語や体育などの専科教員による出前授業の要望がある。北斗中
学校の教職員数や教員一人あたりの授業時数を考慮しながら、小中学校の教員の乗
り入れや相互交流を検討していく必要がある。

(5) その他

① 取組

○数学・漢字検定合同実施

○部活動見学会

② 成果

○各種検定の合同実施については、中学校の保護者から小学生の弟妹も受検させたいとの要望を受け、今年度試行的に実施した。今後は、試験監督などの職員間の交流連携も含めて、体制を整備していきたい。

③ 課題

○数年前から、小学校6年生向けの部活動見学会を実施している。昨年はコロナの流行もあり、見学会実施を見合わせたが、次年度以降は見学会を再開し、進学への不安を取り除き、早く中学校の生活に慣れさせる活動を充実させていきたい。